

## 2022 年度 学校関係者評価委員会 議事録

専門学校 YIC リハビリテーション大学校 502 教室

2022 年 6 月 30 日 15:00~16:30

### 出席者

#### (外部委員)

- A 委員 卒業生
- B 委員 企業等委員 (実習先 施設リハビリセンター)
- C 委員 企業等委員 (実習先 施設リハビリセンター長)
- D 委員 企業等委員 (リハビリテーション支援団体 理事長)

#### (学校：事務局)

- E 校長
- F 副校長
- G 事務長
- H 校務主事
- I 教務主事
- J 理学療法学科長
- K 作業療法学科長
- L 学校関係者評価委員会担当

1. 校長挨拶 (E)
2. 定足数の確認, 委員長の選出 (F)  
定足数確認. 委員 12 名, 過半数以上の出席により本会議は成立する.  
委員長に D 委員, 副委員長に C 委員を推薦. 全員の賛同により承認された.
3. 議事 (D 委員長, C 副委員長)

### ●2021 年度の報告

#### ○2021 年度自己点検評価結果について (F) ・ ・ 資料 2021 年度自己点検・評価報告書

- 1.多くの項目はこれまでの実績を踏襲し取り組んだ.
- 2.2020 年度から評価 (◎○×) を上げた項目, 下げた項目について説明.
- 3.教育の実施体制 - 7 環境エコ活動 ・ ・ エアコンの改修工事, 電気の LED 化, 省エネ用のフィルムを窓ガラスに貼るなど
- 4.学生指導 - 企業の会, 後援会 ・ ・ 臨床実習指導者会議を通じ学生の支援を行っている.
- 5.管理運営 ・ ・ 定期的な防災訓練を行っている. コロナの影響で昨年度は実施できなかったものを再開した. 本来行っているものである.

- 6.本校版評価 教育活動 レポート課題等学生の負担にならないよう支援できているか  
・・授業の中で行っている。
- 7.学生生活支援・就職指導・・学生の希望に沿って問い合わせを行う等開拓を行っている。
- 8.国際交流活動・・コロナの影響で行っていない。韓国の大学ではほとんどがオンライン授業とのこと。学生間の交流を行う状況ではない。

<質疑応答>

- D 委員： レポート課題等学生の負担にならないよう支援できているかということについて、どのような内容か。
- F : 担当が違う先生からいろいろな課題が出ている。個人の課題ではなく、班ごとの課題で、さらにその班が授業ごとで異なっている。授業内でレポートを完結し発表するなどを行っている
- K : 以前はレポート課題にしていたものを、授業中に行わせ発表させるなど行っている。
- F : レポート課題ではコピー&ペーストのようなものもあり、授業中に課題を行わせるほうが良い面がある。
- D 委員： 求人の開拓を行っているということであるがどのような内容か。
- F : これまでは受け身に対応することが多かったが、教員がネットやアプリを通じて求人情報を学生に伝えることがある。学校へ求人票が来ていなくても検索すると募集情報が得られることがある。
- C 委員： 企業の会について、臨床実習指導者会議を通じてということ、それとは異なることですが、実習地訪問はオンラインで行われているが、実際には学生の様子が把握できているのか心配になることがある。自分が学生だった頃は教員が来るだけで安心できたところがある。学生さんはどのように感じているのか。
- J : コロナのことがあり、訪問は控えさせていただいている。施設様から要望があればいつでもお伺いする体制ではある。
- C 委員： 学生さんからは要望はないか。
- J : 学生からの要望は現在ない。学科ごとの緊急携帯があり、相談事があれば連絡できるようになっている。また、スマホアプリ LINE（以下：LINE）等でも連絡できるようになっている。
- K : 作業療法学科でも同様に学生へ電話連絡等行っている。学生から訪問に来てほしいとの要望はない。現在実習中の学生はそもそも教員が実習地訪問をするという経験がない。訪問をしないことで学生とのトラブルは生じていない。
- F : ゴールデンウィーク明けから始まって、来週に実習が終了になるが、理学療法学科は1件訪問したのみ。
- K : 作業療法学科は訪問していない。
- C 委員： 学生にとってはそれが当たり前ということなら、安心である。
- F : 緊急携帯というと、以前は学生が連絡することのハードルが高かったが、最近では抵抗なく連絡できているので助かっている。緊急携帯においてLINE等で連絡できるため、気軽に情報交換がしやすくなっている。コミュニケーションが取りやすいように心がけている。

○2021 年度学科報告・資料 2021 年度学科報告資料

K : 2021 年度国家試験合格率は全国平均を下回り 75%であった。国家試験合格者の就職率は 100%、卒業生に占める就職者の割合は 100%である。

中途退学者は 2 名、中退率 3.5%である。

2021 年 4 月 1 日在学者 58 名、2022 年 3 月 31 日在学者 56 名である。

J : 2021 年度国家試験合格率 78.6%、全国では 79.6%であった。

就職率は、国家試験合格者の 90.9%、卒業生に占める就職者の割合は 92.0%であった。引き続き就職活動中である。

中途退学者は 6 名、中退率 5.3%である。

2021 年 4 月 1 日在学者 116 名、2022 年 3 月 31 日在学者 110 名である。

<質疑応答>

D 委員：就職者数について、例年 100%であるが、コロナの影響もあるのか、求人数が減っているということがあるのか。

F : 県内においては微減。

J : 就職率については求人がないわけではないが、その上で選んでいる。どうしても国家試験勉強中に合格ラインに達していない学生は就職活動を控えている。合格後の就職活動になり、その時には終わっている求人ばかりになるので、その中でも選びながらの就職活動であるため、年度をまたいでの就職となる。

F : 学生によっては、希望の就職先の求人が出るまで待つという場合もある。そのような場合は来年 4 月 1 日採用ということもあるかもしれない。

D 委員：カリキュラムが変わったということであるが、いつからか。

F : 現 3 年からは新カリキュラムである。

○2021 年度重点項目と取り組みについて（検証）・資料 2021 年度重点項目への取り組み

重点項目（1）入学者数増（F）

重点項目（2）国家試験合格率 100%達成、国家試験対策教育の充実（F）

重点項目（3）遠隔授業に向けたハード面の充実（F）

資料をもとに説明した。

<質疑応答>

重点項目（1）について

A 委員：今年度は 1 年生の授業を 1 コマしたが、しっかり人数がそろっていると感じる。また、よく聞いてくれている学生が多いとも感じている。入学者を増やすにあたって効果があったことがあるか。どの学校も定員いっぱいに入学者を入れることが難しい状況の中だと思うが。

F : 今年度のことがこれから数年続けば、何かしらの効果を説明できると思うが、「たまたま」ということもある。広報活動は努力している。また教員がオープンキャンパスやガイダンスで説明するときには、共通のフォーマットを使用し、共通認識を持って行っている。それが功を奏

したのかは数年続けてみないとわからない。

E : 今年の1年生は評判が良いようである。

C 委員 : 実習では学生に「なぜ作業療法を選んだのですか」と問うようにしている。半数は親に勧められたと答える。その半数の中でも、親が介護士または看護師である。自分自身は地域で仕事をするところがあるが、その際に「山口県には養成校が2校あるが、どちらがいいか」と尋ねられることがある。地域で仕事をする中で、作業療法士が見られているという感触を得ている。またホームページもよく見ておられる。当校のホームページはアクセスしやすかったとも聞いている。教員が地域での活動をしているということであり、その効果も出ているのではないかと、地域で活動して感じている。

F : この数年、渡辺係長を中心に地域貢献の事業をかなり増やし教員が出ているが、今年度も本部と調整して継続していきたい。

## 重点項目（2）について

A 委員 : 昨年度の結果については、学生の学力が低いことでの結果なのか、一昨年度と同程度での結果なのか。

K : 作業療法学科では、一昨年度100%であり、昨年度と比較するが、学生に対して行っていることはほとんど変わらない。また少しずつブラッシュアップしながら対応している。よく見ることとして、成績上位者と中間層、下位層に分けてみている。上位者は教員が手を掛けなくとも学習を進めることができるが、下位層の学生には手厚くかかわることが必要であった。教員が手厚く関わるが、こちらが思うように取り組みを継続できなかった学生もいた。またモチベーションが低い学生もいた。もう一つは中間層の学生のうち予想していなかった学生が不合格となった。その学生を分析すると、実習中にレポートが書けないなどの問題があった。単純に成績のみでなく情意面もかかわっているのかとも考えている。学力だけでないリスクを見つけることが大切と感じる。1年次からの成績に加え、レポートや提出物の期限が守れるかなど、学校生活全般から分析を行おうとしている。

J : 国家試験勉強の後半にクラス全体が頑張る雰囲気醸成できなかった。教員の落ち度もあるかもしれないし、学生の力かもしれないが、上がり調子にならなかった。1年生から4年生の流れの中で、国家試験に取り組むにあたり、何が問題なのかを検討していかないといけない。

A 委員 : 昨年度の学生は、病院側が受け入れできず、実習に行くことができていない学生だと思う。理学療法士、作業療法士になりたいという気持ちは、実習を通して学校で学んでということがなかったことで、その職業に就きたいという気持ちが出難い状況になっていたと思う。

F : 山口県はまだ状況が良かったが、関東や関西では全く実習に行くことができていない。また国家試験前には全国模試があるが、その結果から、国家試験の合格がかなり厳しい学生がいることがわかっており、早期から学生に介入を行っての結果である。

E : ありとあらゆる角度から分析を行ってはいるが、やはり一番は学力である。また、分析はしているなかで、クラスの中でお互いに助け合うような雰囲気は影響するのではないかと感じている。

A 委員 : 授業をしていて、クラスによって雰囲気が異なることは感じている。

●2022 年度重点項目と取り組みについて（計画）・・資料 2022 年度重点項目への取り組み

重点項目（1）定員充足（F）

重点項目（2）国家試験合格率 100%達成，国家試験対策教育の充実（F）

重点項目（3）コロナ対策の徹底，脱コロナに向けた取り組み（F）

資料をもとに説明した。

<質疑応答>

D 委員：重点項目 2 では，動画コンテンツを活用するとあるが，2021 年度の報告でタブレット等の端末が不足しているとのことであったが，どのように対応する予定か。

F : 現 4 年生は実習に行く前には各自がパソコンを持っていたため，各自が持参して行っていた。Wi-Fi を増設したこともあり，各自がパソコンを持ってきて行っている。学校にもある程度の台数はあるが，学生が使用するに台数が足りない。

D 委員：購入に関しては各自に任せているのか。

F : 昨年度から，募集要項に，パソコン購入やインターネット回線の YIC グループ特別プラン等を記載している。昨年以前に入学した学生にはそれらを紹介していないため，パソコンを持っていない学生もいた。実習ではパソコンが必要になるということで，学生に説明はしている。学校では 15 台程度は学生に貸し出せるようにしている。

E : 現段階では募集要項で案内する程度である。現実的には，オンライン授業や国家試験対策をスマートフォンのみで行うことはかなり効率が悪い。

F : 小・中・高校ではすでにタブレットで授業や宿題を行っているため，変わっていくと考えている。

A 委員：医学部の学生は国家試験過去問習熟試験（以下：CBT とする）を受験するにあたり，かなりの緊張感をもって受験していると聞いている。当校の CBT についても試験として取り入れていく方向か。

E : 医学部では全国組織で CBT や客観的臨床能力試験（以下：OSCE）を実施している。コンピューターで試験を受けることで集計が省力化される。合格するまで何度も受ければ，その都度集計することになるが，その手間が省力化される。

F : 現在，学生へは「300 問から 50 問を選んで出題する」と伝えて CBT で行うようにしている。多くの学生は 1 回で 9 割程度できているが，中にはかなり低い学生もいる。CBT をクリアしないと留年ということは新年度開始時に学生にオリエンテーションして伝えている。試験内容の難易度を上げることはできる。

A 委員：1 年生の授業を担当したが，授業の前に講師に対して質問がないかと問うと「国家試験はどのようにしたら合格できますか」という質問があった。6 月であったが，半数以上が国家試験に関する質問であった。年々，意識が高まっているのか，今年の 1 年生が特別なかわからないが，国家試験に合格しなければいけないという意識が高いように思う。

F : 1 年生から国家試験対策を行っている。解剖学，生理学で学習した内容とリンクした問題を解く機会を作っている。

●その他

<質疑応答>

- D 委員：今年度評価実習から、臨床実習指導者講習会を受けた指導者が指導するのか、そのあたりで実習施設の確保に影響はないか。
- K : 今年度は受け入れ施設が少なく、現在、方々へ連絡をしてなんとか確保できた。これまでは、実習施設の確保にそれほど苦勞をしていなかったが、今回はコロナの関係で受け入れができないということと、もう一つは指導者要件を満たさないため受け入れられないということが理由であった。今年度、山口コ・メディカル学院さんと山口県作業療法士会と協力して、指導者講習会を2回開催する予定である。新カリキュラムでは地域実習を行うことになっているが、それらの施設も確保しなければならない。
- J : 理学療法学科はおおむね足りている状況である。
- A 委員：山口大学では実習の受け入れが再開できたが、これまではコロナで受け入れられなかった期間に「学生の指導をしなくて楽だ」と感じている指導者もいるのではないかと感じている。そのため、実習の受け入れを再開することを断る理由に「コロナ」と使うことを都合が良いと思っている指導者もいると思っている。学校は実習施設確保が大変だろうと思っている。
- E : 学校としてはお願いしていくしかないと思っている。次世代につなぐということで、よろしく申し上げますとしか言いようがない。
- J : コロナを実習受け入れを断る理由にしているとは感じていない。施設長の方針で決まっている。

4. その他 (F)

- (1) 学校の年間予定について
- (2) 学校パンフレット・募集要項・年報について

以上

議事録作成者:L